

母親の乳幼児養育に関する調査

—ブックスタート事業18ヶ月児を中心に—

Research on Infant Rearing

—About the infant of 18 months of the Bookstart Program—

原 崎 聖 子・篠 原 しのぶ

Seiko Harasaki・Shinobu Shinohara

キーワード：養育意識 ブックスタート 絵本 18ヶ月児

はじめに

1992年に英国バーミンガム市で始められたブックスタートは、世界中で、それぞれの国に合わせた目的を持ちながら広がりを見せている。

わが国においても2000年の「子どもの読書年」推進会議によって紹介された後、2005年10月31日現在の全国のブックスタート実施自治体数は630、全国の市区町村数は2,214に上っている。

日本全土にブックスタート事業が普及していく中で、それぞれの地域が特徴を活かした活動を展開しているが、「赤ちゃんの幸せを願う」という基本理念や、各地方団体が説明と共にブックスタートパックを手渡しして絵本を媒体とした親と子のぬくもりのある関係作りを地域ぐるみで支援しようという共通の目的は引き継がれている。

われわれは、2001年9月よりブックスタート事業準備を始めてきた小郡市に、2003年より調査協力を継続しながら、ブックスタート事業の効果や母親を中心とした子育てに関する意識を検討している。

昨年はこれまでに得られたデータに基づいて、「母親自身の幼児期の絵本体験は母となっても記憶に残って、我が子の養育に好ましい影響を与えていること」また「ブックスタートを受けることで絵本に対する意識が高まり子どもに読み聞かせをする機会が増す」という結果を得た。

また、データ数は充分とは言えないが「ブックスタートを受けたにもかかわらず絵本の読み聞かせ時間が少ない場合は母親の育児不安が高い」という結果も得られた。(原崎、篠原、2005)。

このように、10ヶ月健診児のブックスタート直後に実施した調査では明らかにその効果が見られたのだが、果たしてこのブックスタート事業の影響は継続しているのだろうか。

今回の調査においては、この点を確認するために、18ヶ月児を対象としてブックスタートの効果の継続性について検討をすすめる。また、養育意識についても10ヶ月との比較を交えて検討してみることとする。

I. 調査手続き

調査対象者	小郡市在住の18ヶ月児を養育中の親 (主として母親) 175名
調査期間	18ヶ月健診時 2004年4月～2004年12月 (10ヶ月健診時 2003年9月～2004年9月)
調査内容	・ 出生順、性別、保育所への通所状況 ・ 絵本の読み聞かせの頻度 ・ 絵本の読み聞かせに対する子どもの状態 ・ 絵本の読み聞かせに対する親の態度 ・ 親が感じる絵本の読み聞かせの利点 ・ 親が感じる育児ストレス ・ 子どもの親への愛着および甘え その他

5段階評定項目については

5：非常にそうである～1：全くそうでない

上記質問項目に関しては、「ブックスタートパイロット
スタディ18ヶ月調査 秋田喜代美(東京大学)」を参照した。

方法

18ヵ月乳幼児健診時に質問紙を渡し、2週間以内に
記入後返送用封書にて返送してもらった。

参考

10ヶ月時ブックスタート事業の内容：

ブックスタートパック

・絵本関係；

A：じゃあじゃあびりびり (偕成社)

ちいさなうさこちゃん (福音館)

たんたんぼうや (福音館)

B：おつきさまこんばんは (福音館)

がたんごどんがたんごどん (福音館)

いないいないばあ (童心社)

以上、合わせて6種の絵本のうち保育者本人がA・

Bそれぞれより1冊ずつ絵本を選んだ。

・「赤ちゃんのすきなもの知ってる」(アドバイス集)

・「赤ちゃんと楽しむ絵本リスト」

・その他；

「図書貸し出し登録申し込み書」

「子育て支援センター紹介」

「児童相談案内紹介」

「ブックスタート用布製かばん」

「10ヶ月健診を受けられた方への質問紙」

説明内容：「読書推進運動」第401号 より

・字を読めない赤ちゃんでも抱っここの暖かさの中で本
を開いてお話してもらったり話かけてもらうことが
嬉しく、満足感や人への信頼感を培えるということ。

・ブックスタート事業は絵本が字や数を覚えるための
ものではなく、抱っここの暖かさの中で優しい言葉が
交わされる時間を持つ際のツールとなること。

実施要領：

まず、10ヶ月健診時に、受診に来た乳児に対して担
当者(図書館員もしくはブックスタート推進員)が実
際に絵本を開きページをめくりながら読んでみる。

次に保育者が乳児を膝に抱いたまま絵本を開きなが
ら子どもに語りかける。子どもの反応を確認しながら
必要に応じて担当者が指導する。

II. 結果

1. ブックスタート事業への意識

図1.「ブックスタート事業を知っているか」とい
う質問では、ブックスタート事業を知っている割合が
92.9%と高い割合を占めている。図2.「ブックスター
トで絵本を受け取ったか」という質問では91.0%が受
け取ったと答えている。また、図3.「ブックスター
トの説明を受けたか」という質問では86.7%が説明を受
けたと答えている。

これらのことから、小郡市で10ヶ月健診時に実施し
たブックスタート事業は18ヶ月健診時まで説明の内容
や趣旨も記憶に留められ、母親を中心としてかなり高
い割合で普及していると考えられる。

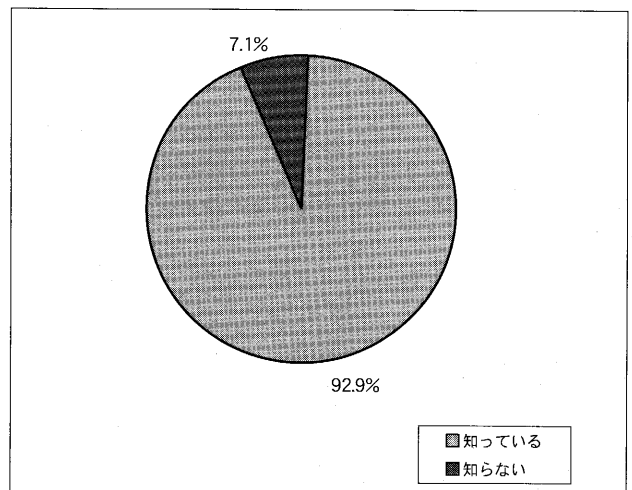


図1. ブックスタート事業を知っているか

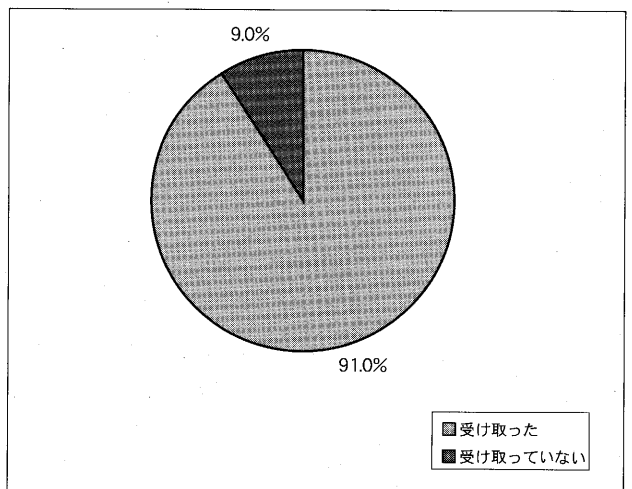


図2. ブックスタートで絵本を受け取ったか

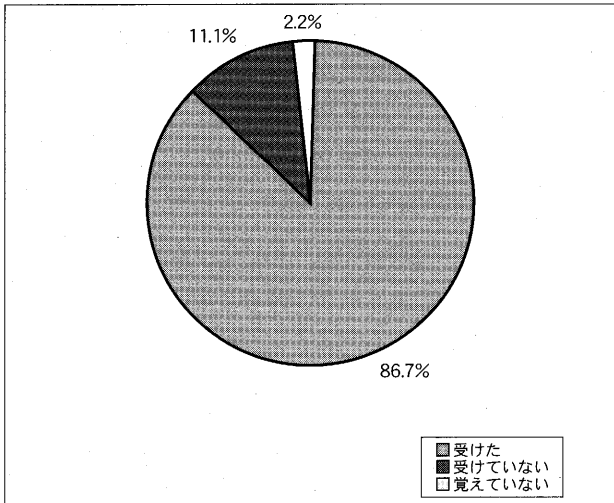


図3. ブックスタートの説明を受けたか

2. 絵本の読み聞かせに関して

(1) 読み聞かせの頻度と用途

図4. 「絵本をどの程度読み聞かせるか」という問いについては、ほとんど毎日が42.0%、週に3～4日が27.1%と両者合わせて70%近くにのぼり、母親は18ヶ月程度の我が子に対して絵本の読み聞かせを行っている状況が垣間見られる。また図5. 「絵本の読み聞かせをいつするか」(複数回答)という問いに関しては、「子どもが要求した時」が一番多く74.9%に上っている。幼児が絵本を通して母親に自分の要求を知らせ、母親がそれに答えるというコミュニケーションのやり取りが成立していることが伺える。絵本を読み聞かせる他の機会としては「母親が読んでやりたいとき」30.3%、「夜寝る前」22.9%となっている。これらは、母親が子どもの不安解消や情緒安定の手段として積極的に絵本を利用しようという意識のあらわれであろうと考えられる。

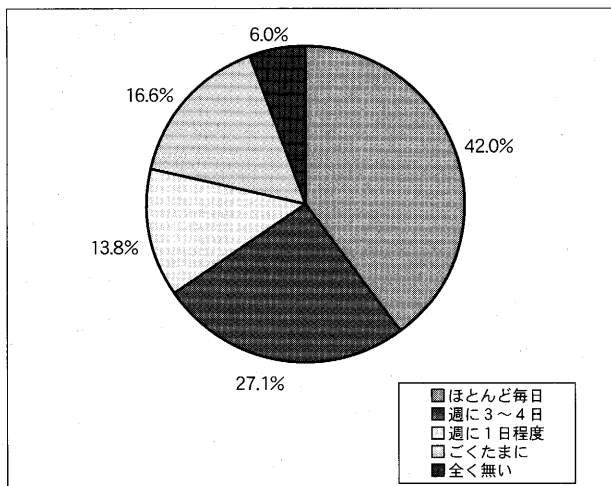


図4. 絵本の読み聞かせ頻度

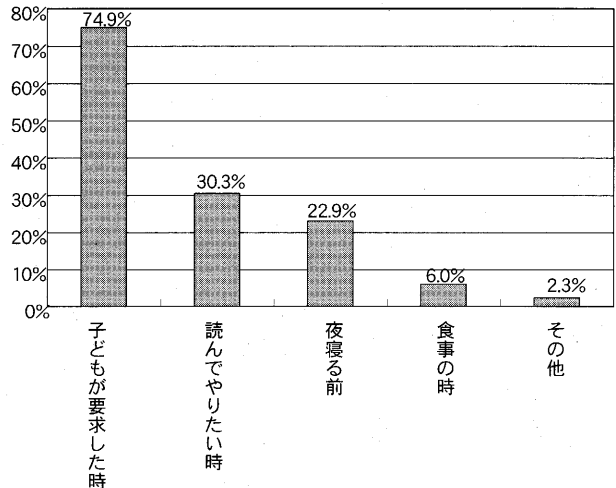


図5. 絵本の読み聞かせをする時はいつか(複数回答可)

(2) 親の読み聞かせの態度

図6. 「どのように読み聞かせをするか」ということを五段階評定で聞いた結果、平均点が一番高かった項目は「子どもと一緒に絵本を楽しむ」(3.83)であった。ついで「子どもの声を聞きながら」(3.45)、「絵本の行動や言葉を真似る」(3.25)、「子どもの声や話を復唱する」(3.24)の順になっている。これらの項目を見てみると、母親が子どもの発話に対して自然と促しや強化をしている様子が伺える。また「説明を加える」(3.20)に関しても子どもの興味が母親の発することばに向いていることを母親が感じていることのあらわれであろう。「身振りや手振りをつける」(3.05)という母親の身体表現の付加は子どもの成長とともに減少の方向にあるといえる。また、「生活体験を話す」「気持ちを話し合う」という項目は2点代に留まり、18ヶ月段階では母子で話し合うという形でのコミュニケーションはまだ難しいと思われる。

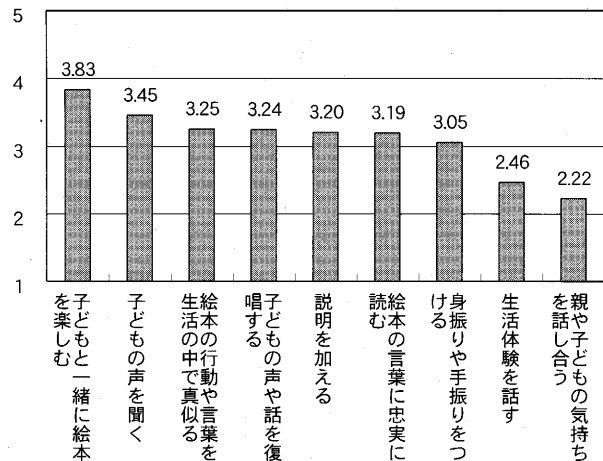


図6. どのように読み聞かせをするか

母親は、絵本を通して子どもの発話状態を把握しながら自然と子どもたちに最良の読み聞かせ方法を工夫しているのではないだろうか。

(3) 読み聞かせ時の子どもの態度

図7. 「読み聞かせ時の子どもの状態」について5段階評定で聞いた結果、「次のページをめくろうとする」(4.46)、「指をさす」(4.36)の2項目が4.0を上まわっていた。子どもが絵本に描いてある事柄に興味をもち、自分の手を使って絵本に身体で触れながら楽しんでいる様子が伺える。ついで、「お互いに目が合うと微笑む」(3.39)、「同じ絵本を何度も読んでほしいがる」(3.73)、「絵本をじっと見ている」(3.71)となっており、絵本への注意集中と母親との時間の共有に対する子どもの喜びを表している。「絵本をなめたりかじったりする」(2.71)という味覚での物の確認や、「親の顔をじっと見ている」(2.44)などの表情確認はだんだん減少して、絵本に登場する人や物を自分自身の身体感覚や動き、音などを通して理解したいという様子が伺える。

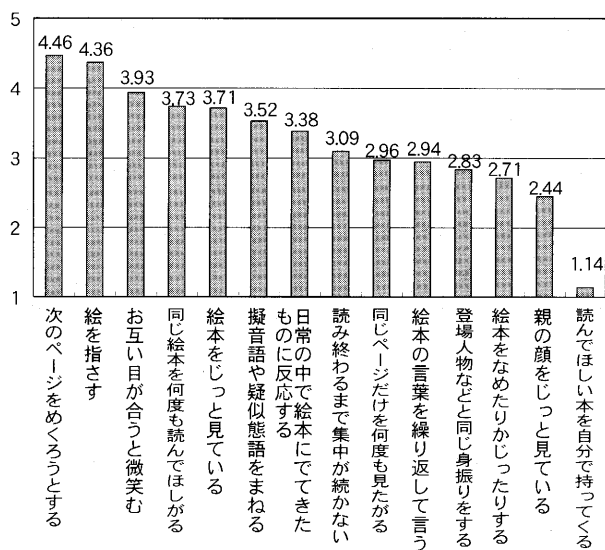


図7. 読み聞かせ時の子どもの状態

3. 絵本に関わる日常生活について

テレビ・ビデオなどの利用状況および絵本に関する日常的な事態がどの程度行われているかということをも5段階評定で聞いてみた。

結果としては図8. に示すように「子ども向けのテレビをみせる」(3.87)「子ども向けのビデオを見せる」(3.23)など、受動的な視聴覚機材を利用する項目

の得点が高くなっている。特に子どもにテレビを見せられているという得点は高く、現代の子育てにテレビの利用は切り離せないものとなっている。

日常生活の中での絵本との関わりとしては「本屋で絵本を買う」(3.09)、「親自身が自分で絵本を読む」(3.04)、「絵本紹介記事に気を付ける」(3.01)が、ほとんど3点に留まっており、絵本の購入や外部情報に関して強い積極的な姿勢は見られない。また、それと同時に図書館やサークル、文庫に子どもを連れて行く得点はさらに低くなっている。

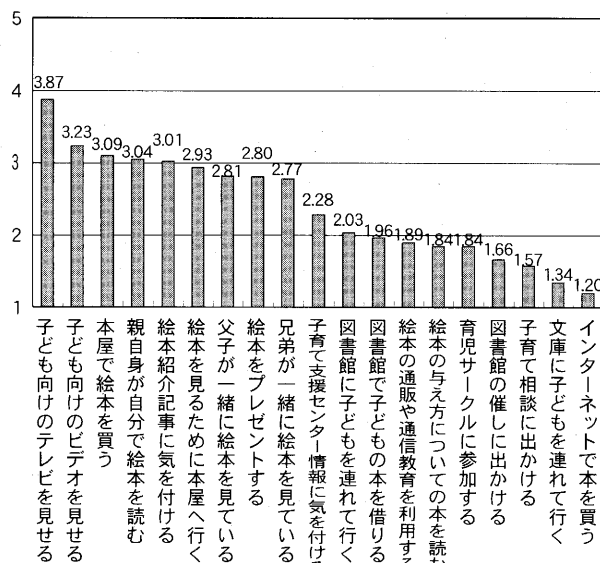


図8. 日常の家庭での様子

これらの結果は、18ヶ月の子どもに対しては外に連れ出すというよりも家庭内での絵本利用が主体であることを物語っている。また、乳児に対しては本や施設などを利用できる十分な福祉体制がまだ整っていないという現状を反映しているものかもしれない。

4. 10ヶ月時と18ヶ月時の比較

(1) 親子で絵本を見ることで良いと思うこと

図9. 「親子で一緒に絵本を見ることで一番良いと思うこと」に関して、各項目を全体でどの程度が選択しているのかを、10ヶ月健診時に得られたデータと今回18ヶ月で得られたデータを比較してみることにする。

まず10ヶ月健診時に得られたデータでは「子どもの感性が育つ」が35.0%、「親子の絆が深まる」が25.0%、「子どもが本好きになる」18.0%の順になっているのに対して、18ヶ月の場合は「親子の絆が深まる」が34.0%、「子どもの感性が育つ」と「子どもが本好きになる」は共

に23.0%となっている。

母親は10ヶ月時の子どもには、絵本と子ども自身の五感との関わりを最も重要視しているが、18ヶ月時には母子関係を繋ぐ媒体としての絵本の機能を第一に考えるようになってきている。また、10ヶ月、18ヶ月の両時期において子どもの言葉や知性の早期発達を絵本の利点としてあげる割合は低くなっており、ブックスタートの本来の目的を実感として受け止められているものと思われる。

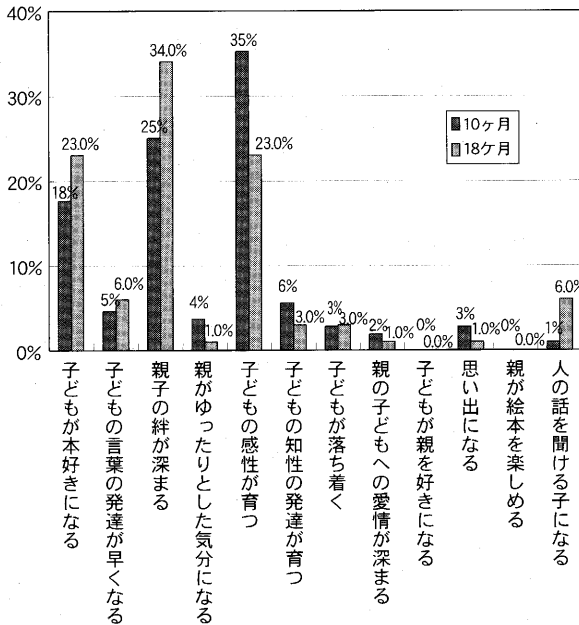


図9. 親子で絵本を見ることで一番良いと思うこと (月齢比較)

(2) 母親の育児観

子どもの養育に関する肯定的項目と否定的項目について5段階評定で尋ねた。結果は図10. に示す通り10ヶ月時と18ヶ月で平均点が大きく異なる項目は無かった。両時期ともに「子どもの寝顔がかわいい」の得点が4.8以上と非常に高くなっている。また、「育児によって自分が成長している」や「子どもをうまく育てている」などの肯定的項目も、「毎日くたくたになる」「育児をどうしたらよいかわからない」などの否定的項目も18ヶ月時の平均点が低くなっていることから、10ヶ月に比べて18ヶ月時の母親は起伏の少ない養育を行っていると感じ取ることができるが、言い換えると18ヶ月時の育児は身体的精神的な負担は軽減されている一方で育児に対する自信が減少し、多少不安が増加しているのではないかと考えられる。

また、表1. の18ヶ月児における「母子愛着と育児

ストレスの相関」では、母親のストレス (否定的項目) が子どもの甘えの強さと相関があることを示していた。

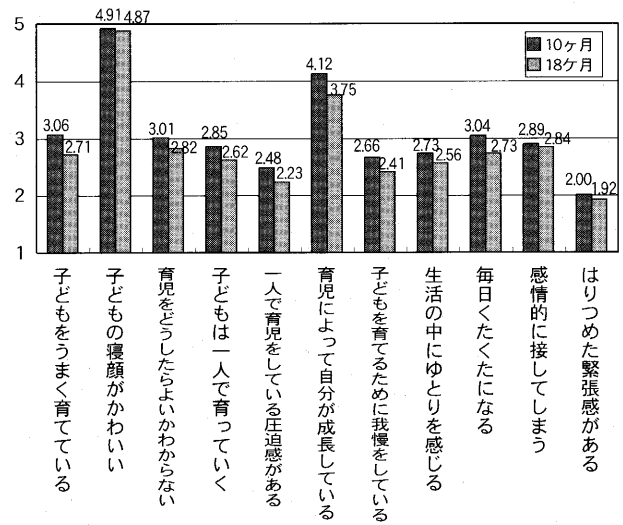


図10. 母親の育児観 (月齢比較)

表1. 母子愛着 (甘え・安定) と育児ストレスの相関

育児項目	肯否	甘え	安定
子どもをうまく育てている	肯定	.014	.143
子どもの寝顔がかわいい	肯定	-.002	.191*
育児をどうしたらよいかわからない(ス)	否定	.327**	.112
子どもは一人で育っていく		.018	.042
一人で育児をしている圧迫感がある(ス)	否定	.229***	.135
育児によって自分が成長している	肯定	-.021	.186*
子どもを育てるために我慢をしている(ス)	否定	.137	.008
生活の中にゆとりを感じる	肯定	-.103	.052
毎日くたくたになる(ス)	否定	.213***	.088
感情的に接してしまう(ス)	否定	.335***	.054
はりつめた緊張感がある		.140	.097

ス) : ストレス項目 *...1.0%、***...0.1% 水準

以上の結果から、10ヶ月時に実施したブックスタートは、18ヶ月時においても記憶され、絵本を通して母と子の関係を作るという趣旨は引き継がれていた。母親は子どもの要求やことば、身体的な発達に合わせた形で絵本を利用している。18ヶ月児の場合は、まだ積極的に公共の施設に出向くということはない。これは母親が家庭を中心とした養育を展開していることが考えられる。

しかし、子育て支援という立場からみると、もし、図書館や文庫などでこの時期の乳児をゆつくりと楽しませる施設設備が整っていないということが、その原

因になっているとすれば、今後の課題として考えていく必要があるだろう。

また、18ヶ月児は授乳も終わり母子が密着する必要性はなくなったものの、自立歩行が可能になったことで、母親の育児に対する不安はかえって増えている。このことに関する丸澤・宮本の研究を見てみると、母親が子どもの発達や愛着に不安を感じることは子どもに対する働き掛けを助長し、子どもの問題行動を軽減することが予測されている。つまり母親の適度な不安は母子の好ましい関係形成には必要なものであることを示している。

今回の調査でブックスタート事業の継続効果を見ることができたが、今後、さらに調査を継続していく。

(まとめ)

今回の18ヶ月児を中心とした母親の養育に関する調査(ブックスタートとの関連)から、主に以下のような結果が得られた。

1. 母親は10ヶ月検診時に実施されたブックスタートの説明やその趣旨を、18ヶ月時点でも記憶している
2. 母親は18ヶ月児に対し、子どもの要求に応じて日常的に絵本の読み聞かせをしており、絵本を通して子どもの情緒安定や母子コミュニケーションをはかっている。
3. 18ヶ月児の絵本の内容に対する興味が増し、絵の指差し、ページめくりなどの行動が出現している。
4. 母親は家庭において絵本を媒体とした親子関係を

育んでおり、18ヶ月児に対して文庫や図書館などの施設はあまり利用していない。

5. 母親は10ヶ月児に対しては子どもの感性和絵本の関係を重視しているが、18ヶ月児には母子の絆を深める媒体として絵本を認識している。
6. 18ヶ月時は10ヶ月時に比べて、母親の育児に関する身体的・精神的な負担は軽減しているが、養育に対する不安は増している。
7. 子どもの甘えの強さは母親の否定的な養育観(ストレス項目)と相関があった。

「参考文献・資料」

- ・中川素子他(2001)「絵本の視覚表現—そのひろがりとはたらき」日本エディタースクール出版部
- ・三森ゆかり(2002)「絵本で育てる情報分析力」一声社
- ・「第1回ブックスタート全国大会資料」2002年2月7会場；千代田区公会堂 主催；ブックスタート支援センター
- ・「絵本でつなぐ親子のブックスタート 読書環境意識調査報告書」2001年3月 恵庭こども読書推進ネットワーク開発実行委員会
- ・「恵庭市ブックスタート事業概要説明」平成14年10月 恵庭市立図書館
- ・「母親の育児意識と乳幼児の問題行動 —子育て支援との関連—」丸澤由美子 宮本邦雄 東海女子大学紀要 第23号 平成16年3月
- ・「乳児への絵本の読み聞かせに関する考察(1) —子育てにおける絵本の読み聞かせについて—」生駒幸子 日本保育学会 第58回大会 発表論文集 2005年
- ・「母親の乳幼児養育に関する調査 —ブックスタート事業との関わりから—」原崎聖子 篠原しのぶ 福岡女学院大学紀要人間関係学部第6号 2005年